

⑤テンカワンオイル(*Shorea stenoptera*) @インドネシア



渡辺弘之 (2005) 消えたテンカワン (イリッペ・ナッツ) — フタバガキ林の産物

テンカワンオイル

製品の概要



- **テンカワンとは・・・**

- ◎ インドネシア、マレーシア原産のフタバガキ科樹木の内、種子に含まれる油脂が食用等に利用されるもの

*Shorea stenoptera*等、十数種

- **テンカワンオイルの主な用途**

- ◎ **伝統的**：調理用油、灯用油及び伝統薬の材料
- ◎ **工業用**：ココアバター代替油脂、及びシアバターの代用（食用油 マーガリン、チーズ、その他菓子等の混和料）。化粧品（口紅、肌用保湿剤）、薬（座薬）の原料。ローソク及び石鹼の原料。

- **生産国**

- ◎ インドネシア（カリマンタン、スマトラ）、マレーシア（サバ、サラワク）、ブルネイ等

- **特徴**

- ◎ 優れた保湿性、融点がちょうど体温で融ける性質（30-39℃）
渡辺(2005)



需給動向

- ・世界のテンカワンオイルの需給動向

米国、加、欧州、豪州、中国等で**原材料としてポテンシャル**が高い。

- ・日本のテンカワンオイルの需給動向

現在、日本へは精製した油脂（オイル）を輸入。

1980年代までは、テンカワンの種子を日本へ輸入し、国内で搾油。

当時、大阪の油脂精製企業F社では、**年間1,000トンも輸入**していた。

（渡辺弘之（2005）消えたテンカワン（イリッパ・ナッツ） — フタバガキ林の産物より）

生産側の体制

- ・現地のテンカワンオイルの需給動向

テンカワン樹種の結実是不定期だが、**結実年には借金返済できる**程の収入

- ・西カリマンタン州には、テンカワンオイルを搾油する**工場は二カ所**のみ。

生産量は年間数百トン程度。

- ・テンカワンオイルの潜在生産量は、数百万トンと言われており**未利用資源**。

- ・奥地住民からは、立地条件の良い場所に、**新たな搾油工場の建設**ニーズが高い。

- テンカワンオイルの先進国の**市場可能性は高い**。
- 生産側でも、供給ポテンシャルは高いと考えられるが、**生産、加工体制の整備が課題**。



- 日本国内の市場ニーズや課題を把握し、可能性のある**製品オプションに応じたビジネスモデル**を提案する。
(原材料として低価格多量、あるいは特定市場にプレミアム価格で)
- 立地条件の良い場所に**搾油工場を建設**することにより、未利用のテンカワンオイルを収益事業化。

- 近年、同地域では、オイルパーム農園の開発が奥地まで拡大。
- 立地条件の良い場所に搾油工場を建設することにより、未利用のテンカワンオイルを収益事業化
- **奥地住民の生計を確保し、オイルパーム農園の開発を止める！**

- **資源の腑損量**

- ◎ 聞き取りではかなりの量があると見込まれるが、実際の供給可能量は不明

- **供給体制**

- ◎ 興味を持つ住民は多数いるが、組織的な採取の経験はない

- **コストの削減**

- ◎ 現在稼働中の工場からの聞き取りでは、コスト削減には種子の採取体制の整備など様々な課題。

- **日本での市場**

- ◎ ココアバターの代替油脂としては使われているが、化粧品などの原料としてのテンカワンオイルという製品の名前は知られていない。

タイプ	産物	ターゲット企業	優位性	課題
短期	石鹼	自社で製造販売する他、石鹼製造販売企業へ 社会性をアピール	ステアリン酸が多いので洗浄力は強い。 臭い等への要求が少ない 熱帯林を破壊しない油脂	市場認知 ブランディング
中長期	バスボムやハンドクリームなどのコスメ製品13種（2017年現在）	化粧品販売	買取企業のポリシー（オイルパームフリー）に合致	脱臭・AV,POVの 精製コスト 買い上げ量が少ない(400kg弱)
長期	カカオバター代替油脂	油脂製造大手	未知	まとまった供給量必要 価格が低い ブランディング

石鹼を振り出しとして、熱帯林保護(環境)、伝統文化の継承(社会)的な価値を徐々に広めると同時に生産・供給体制の整備によるコストの削減を通じて大きな市場をめざす。

- **産物の認知：**
 - ・環境・社会的価値 オイルパームとの関係、ダヤク人の伝統
 - ・まずは既存工場からのオイルを使った石鹼から開始、キャンペーンを展開しながら販売し、テンカワンという名前の浸透を図る
- **安定した供給：**
 - ・現在の供給量はKapuas Hulu, Bengkayang, Landak, Sintang で2000トン(種)
 - ・カカオバター代替を狙うなら安定的な生産可能量把握のための西カリ全域で賦存量の把握が必要
 - ・将来は現地に新たな搾油工場を建設し、安定的な供給を確保する必要
- **精製コスト：**
 - ・現状では欧州で精製したものを輸入するほうがコストが低い。
 - ・一定の量を確保する事で精製の費用も削減可能